

幼稚園入園年齢 4 歳児への 読み聞かせにおける絵本の選書理由 および保育者の読み聞かせスタイルの検討 —「降園前」の読み聞かせ場面に着目して—

並木真理子 (洗足子ども短期大学准教授)

要約

本研究の目的は、入園年齢 4 歳児クラスにおける担任の絵本の選書理由と読み聞かせスタイルを分析することであった。その結果、保育者が比較的自由に選書を行う「降園前」の読み聞かせには、担任と幼児との信頼関係の構築、絵本への興味の向上、クラスで読み合う楽しさを体験するための絵本が選書されていた。また、保育者は、物語理解の手掛かりとなる直接的な読み聞かせスタイルと、お話の展開への期待感を高めるための間接的な読み聞かせスタイルを行っていた。

キーワード：絵本の読み聞かせ 入園年齢 4 歳児 絵本の選書 読み聞かせスタイル

課題と目的

幼稚園教育における絵本は、幼児の豊かな想像性や言語に対する感覚を養う重要な教材として位置づけられ、絵本に関する指導方法として、「題材や幼児の理解力などに配慮して絵本を選択し、多様な興味や関心に応じること」、「集団のなかで友達と共感し合い、落ち着いてじっくりと絵本に触れることのできる環境づくりをすること」などが示されている（「幼稚園教育要領解説」、2008）。また、幼児が選ぶ絵本は保育者に読んでもらった絵本であることが多く、自由遊び時に手に取ったり、絵本の貸し出しや図書館で借りて家庭で楽しんだりしている（横山、2006）。それゆえ、幼児の絵本体験には、担任となる保育者の選書の仕方や読み聞かせスタイルが大きく影響していると考えられる。

ところで、保育者が行う絵本の読み聞かせの多くは降園前に行われることが示されている（長瀬ら、2003）。主活動への期待感や意欲の向上を意図した「活動前の導入」、食後の休息や気持ちの切り替えを図る「活動の切り替え」など、ねらいが明確な場面に対し、「降園前」の読み聞かせは、保育者の裁量に任された比較的自由度の高い選書場面と考えられる。また、幼児の 1 年間の育ちに即して絵本を選ぶ意図も変容すると推察され、長期的な行動観察が必要であることはすでに課題として指摘されている（添田・藪中、2011）。さらに、保育における読み聞かせは、他の活動に独立して存在するのではなく、一連の保育の流れに組み込まれるべき活動であること（横山、2006）を考えると、保育者の裁量で選ばれる絵本の選書理由や保育者の読み聞かせスタイルを分析することは、指導計画におけ

る絵本の読み聞かせの位置づけに示唆を与えるものと考えられる。

そこで、本研究では、保育者の選書理由や読み聞かせスタイルが影響すると考えられる「降園前」場面に着目し、長期的な観察とその分析を通して、入園年齢 4 歳児における絵本選書のあり方と保育者の読み聞かせスタイルを検討することを目的とする。

研究の方法

1. 対象と調査時期

東京都内の公立幼稚園 A 幼稚園の入園年齢 4 歳児 a クラスの幼児 32 名（男児 18 名、女児 14 名）と担任の保育者（経験年数 3 年、以下、a 担任）、B 幼稚園の入園年齢 4 歳児 b クラスの幼児 25 名（男児 12 名、女児 13 名）と担任の保育者（経験年数 7 年、以下、b 担任）であった。a クラスは 2010 年 4 月～2011 年 1 月に計 7 回、b クラスは 2010 年 5 月～2011 年 2 月に計 6 回の行動観察を実施した。観察時の絵本は、両クラスの担任がその日のねらいを考慮して選択した。各観察日時、絵本、選書理由、観察時間を表 1 に示した。

2. 手続き

(1) 場面の収録

普段の読み聞かせ時と同様の形態に幼児が座り、担任が絵本の読み聞かせを行った。保育者の動作・発話を撮影するビデオ 1 台を園児の後ろに保育者の対面になるよう三脚で固定し、幼児の動作・発話を撮影するビデオ 1 台を観察者 1 名が手持ちで撮影した。

(2)絵本カレンダーとインタビュー

両担任に保育日全てを対象にその日にクラス全体に読んだ絵本名と選書理由（複数回答可）を書き込む絵本カレンダーを実施した。また、両担任に、7月、12月、3月、幼児の実態についてインタビューを行った。

3. 分析方法

(1)保育者の動作および幼児の動作の 카테고리

並木（2012）の保育者の動作および幼児の動作・発話カテゴリーを使用した。すなわち、保育者の動作として、表情（〔笑う〕〔驚く〕〔注意する〕〔表情を変える〕〔うなづく〕）、視線（〔子どもを見る〕〔絵本を見る〕〔他の物を見る〕）、読み方の工夫（〔絵を指さす〕〔登場人物の感情を真似る〕〔抑揚をつける〕〔身振り〕〔間を取る〕）を設定した。また、幼児の動作として、身体的正反応（〔笑う〕〔驚く〕〔うなづく〕〔じっと見る〕〔指さし〕〔模倣〕〔他児との関わり+（絵本についての関わり）〕）、身体的負反応（〔よそ見〕〔姿勢を変える〕〔立ち歩く〕〔体を触る〕〔他児との関わり-（絵本に關係のない関わり）〕）を設定した。

(2)保育者の動作と幼児の身体的反応の記録と信頼性

絵本の観察単位は見開き2ページを1場面（表紙、見返し、内刷りを含む）とした。分析記録者は、保育者の動作、幼児の身体的反応について、1場面における反応を各項目1回表出（例えば1場面に〔笑う〕反応が2回出ても1回とする）とする1/0サンプリング法を用い、反応カテゴリーチェック表に各反応の生起

の有無を記録した。分析記録の信頼性を検討するため、評定記録者が、分析記録者と同様に1場面ごとに1/0サンプリング法を用いて反応カテゴリーチェック表に各反応の生起の有無を記録した。評定記録者は、幼児教育に携わる大学の教員1名であった。分析記録者と評定記録者との記録における一致率は、aクラスで幼児：86.4%、保育者：89.7%、bクラスで幼児：84.2%、保育者：82.6%であった。

(3)保育者の発話と幼児の発話の記録と信頼性

保育者・幼児の発話反応カテゴリーは、並木（2012）を参考に、保育者：呼びかけ（〔呼びかけ〕〔掛け声〕〔挨拶〕〔合図〕〔応答〕〔感嘆・感動〕）、否定（〔叱責〕〔禁止・拒否〕〔注意〕〔説得〕）、肯定（〔賞賛〕〔励まし〕〔承認・同意〕）、命令（〔命令・要求〕〔許可〕〔依頼〕〔提案・示唆〕）、教示、情報（〔説明・解説〕〔情報・伝達〕〔仲立ち〕〔批評・感想〕〔状況描写〕〔事物の指示〕）、質問（〔質問・疑問〕〔確認・承認〕）、言語化（〔自分の考え・感情・行動〕〔他者の考え・感情・行動〕〔登場人物の考え・感情・行動〕）、幼児：感嘆、笑う、復唱、同唱、疑問、絵へのコメント、お話へのコメント、不満、返答、同意、先取り、要望、経験、その他、を設定した。保育者および幼児の発話は1単語（主語・述語の省略、感嘆詞のみ、つぶやきなど）であっても発話とした。分析記録の信頼性を検討するため、評定記録者が、反応カテゴリーチェック表に各反応の生起の有無と発話を全て記録した。評定記録者は、幼児教育に携わる大学の教員1名であった。分析記録者と評定記録者との記録における一致率は、

表1：aクラスおよびbクラスにおける読み聞かせの観察状況

クラス	観察日時	観察児童数	絵本/ページ数・大きさ	選書の理由	観察時間/場面数	観察時の幼児の反応状況	観察時の担任の読み聞かせスタイル	
a クラス	4月27日 (火)	2.2	『はらけすずみのくまのりん』 とりごえまり 作・絵 文芸堂 2002年 32ページ 21.3×18.6	お話に繰り返しのリズムがあるから	5分48秒 21場面	・繰り返しの場面、次の展開に期待する場面で「じっと見る」が増加。 ・絵本後半に「よそ見」が増加し、最後まで集中できなかった。	・各場面ですら、「子どもを見る」動作で楽しい雰囲気を作る（以下、6回とも同じ）。 ・「抑揚」や主人公の「絵を指さす」により、注目できるようにする。	
	6月29日 (火)	2.3	『いっぴきのおとこ』 長谷川義史 作・絵 絵本館 2006年 28ページ 26.8×20.2	お話が面白く、繰り返しのリズムがあるから	6分19秒 17場面	・繰り返しが始まってから「じっと見る」が安定して表出。また、「同唱」する言語的反応が多く表出しており、参加型の体験が興味を高めた。	・「抑揚」や主人公の「絵を指さす」により注目できるようにしたり、絵について「説明」や「質問」を行う。 ・幼児の「同唱」に合わせて間をとる。	
	9月29日 (水)	2.6	『いっぴきのおとこ』 馬場しのぶ 作・絵 こぐま社 1972年 40ページ 26×18.5	子どもが楽しんで言っていたから	7分21秒 24場面	・絵本中盤で「じっと見る」が減少し、負反応が多く表出した。1場面における文字数の多さにより、物語文脈を読み取りにくく、興味が持続できなかった。 ・絵本に対する「笑い」や言語的反応は友達と共有する姿もみられた。	・「抑揚」や主人公の「絵を指さす」により注目できるようにしたり、絵について「説明」や「質問」を行う。 ・「あはれ」が大きな場面、幼児とその数を数え、展開に期待できるようにする。	
	10月14日 (木)	3.0	『いっぴきのおとこ』 馬場しのぶ 作・絵 こぐま社 1989年 40ページ 26×18.5	保育者がこの絵本が好きだから	10分10秒 24場面	・9月と同じ場面数・文字数だったが、安定して「じっと見る」が表出し、負反応は少なかった。運動会の経路と物語を強く関係づけ、この絵本のシーズを継続的に読んでいたことが要因と考えられた。	・「抑揚」や主人公の「絵を指さす」により注目できるようにしたり、絵について「説明」や「質問」を行う。	
	11月4日 (木)	3.0	A.トルストイ 作 佐々木忠良 絵 内田朝子 訳 福音館書店 1966年 27ページ 26.6×19	お話に繰り返しのリズムがあるから	4分59秒 17場面	・「同唱」する場面以降「じっと見る」の頻度は安定して表出した。 ・手拍子登場人物が段々小さくなっていくことに対して「疑問」が表出された。	・「うんとこしょ どっこいしょ」の「身振り」 ・「うんとこしょ どっこいしょ」の「同唱」の前に間をとるを行う。	
	12月7日 (火)	2.6	佐々木マキ 作・絵 絵本館 1989年 32ページ 25.6×20	保育者がこの絵本が好きだから	7分10秒 19場面	・繰り返しの要素はなかったが、最初から終わりまで、ほぼ全員に「じっと見る」が表出したが、園庭の様子に気がなり「よそ見」をする幼児も多くみられた。 ・「ぶたが木になる」メインの場面では、保育者が「間を取って」絵を見せたことにより多くの幼児に「感嘆」が表出し、「よそ見」が減少した。	・「ぶたが木になる」場面「間を取る」ことで展開に期待が持てるよう工夫していた。 ・保育者の発話はほとんど表れなかった。	
	1月14日 (金)	3.1	『ババ、おつきさまとって』 エリック・カール 作・絵 偕成社 1986年	絵の色彩がきれいだから	3分51秒 19場面	・絵本にしかけの場面が繰り返され、「じっと見る」の反応が安定して表出し、「よそ見」などの負反応はほとんど見られなかった。 ・「感嘆」の言語的反応が多くみられた。	・しかけのある場面には「間をとる」動作が表出。幼児の「感嘆」や「絵へのコメント」が納まるまで、ページをめくらずに待っていた。その間の保育者の発話はなかった。	
	b クラス	5月20日 (木)	1.9	『どうくんのぼうし』 なかのひろたか 作・絵 なかのまさたか レタリング 福音館書店 1999年 28ページ 26.2×19.2	お話が分かりやすく、繰り返しのリズムがある。保育者の好きな絵本である	2分45秒 17場面	・繰り返しの場面に「笑い」反応が多く表出し、次の場面への期待がみられた。 ・「体を触る」が全般に見られ、入園して1ヵ月でまだ個々の安定が十分でなく、「体を触る」ことで気持ちよく安定しようとする様子が見られた。	・各場面ですら、「子どもを見る」動作で楽しい雰囲気を作る（以下、5回とも同じ）。 ・ページをめくる前やめくった後に「間をとる」が表出。幼児の集中を得て読み始める姿勢がみられた。 ・動物たちが泳いでいる場面には「抑揚」をつけていた。
		6月22日 (火)	2.1	『おおきなかな』 西村敏夫 作・絵 福音館書店 2008年 27ページ 21.3×20.1	繰り返しのリズム 子どもの興味に合っている 選びの導入として	4分3秒 17場面	・安定して「じっと見る」が表出しているだけでなく、繰り返される場面全般に「笑い」が表出した。また、背中を流す動作を「模倣」する身体的反応も多く表出した。	・ページをめくる前やめくった後に「間をとる」が表出。幼児の「笑い」が納まるまで読み始めた。 ・最後に動物がおおきなかなの足で進む場面には「抑揚」をつけていた。
		11月29日 (月)	1.8	A.トルストイ 作 佐々木忠良 絵 内田朝子 訳 福音館書店 1966年 27ページ 26.6×19	お話が分かりやすく、繰り返しのリズムがある。動物の絵本として	6分13秒 17場面	・掛け合いの台詞がはじまる場面から安定して「じっと見る」が表出した。特に、かみそり引取る場面では、「笑い」や「よそ見」が頻りに表出（模倣などの絵本への積極的な反応がみられ、「同唱」も多量にみられたことから、クラスのみんなが絵本を楽しんでいる様子が見られた）。	・幼児の「うんとこしょ どっこいしょ」の「同唱」の前に間をとるを行う。
12月14日 (火)		2.1	『たむらこ』 はるぶ出版 1993年 37ページ 27.4×21.3	たむらこもこ 作・絵 はるぶ出版 1993年	5分 21場面	・お話の導入部分には集中して聞かずに利用も、お話の展開が見え始め、繰り返しの場面からは「じっと見る」が安定して表出していた。	・プレゼンテーションに来た人が出てくる場面の前に「間を取る」を行い、幼児の発話を引きだしていた。	
1月13日 (木)		2.2	『おとんとんとん』 新井敏子 作 林明子 絵 福音館書店 1977年 26ページ 26.2×19	保育者がこの絵本が好きだから	7分25秒 20場面	・「見たことある」と発言する（経験）反応が18人に見られた。 ・起承転結のある物語絵本であり、「じっと見る」が安定して表出していた。反応、「よそ見」も複数の幼児に見られた。	・起承転結のある物語絵本であるが、展開が大きく変わる場面のみ「抑揚」をつけ、ページをめくる前に「間をとる」を、めくった後はすぐに読み始める。	
2月14日 (月)		1.7	『おとんとんとん』 あきやまだし 作・絵 金の星社 1997年 32ページ 24.2×21.1	お話が面白く、繰り返しのリズムがあるから	3分33秒 21場面	・最初から最後まで「じっと見る」が全員に安定して表出し、負反応はほとんどなかった。また、「よそ見」や「よそ見」の掛け合いが始まる場面からは「笑い」や「説明」も表された。	・その家の住人が出てくるページの前に「間を取る」を行い、幼児の発話を引きだしていた。	

するようになったのではないかと推察された。

「子どもの実態」の下位カテゴリーでは、aクラスで「子どもが読んで」が38.7%、「子どもの興味」が35.4%であり、bクラスで「子どもの興味」が46.8%、「子どもの生活」が27.7%であった。表2の「子どもの実態」の推移において、a担任が「子どもが読んで」と言った絵本を1年間通じて選書したのには、人数の多いクラスにおける幼児との信頼関係を築く過程で、幼児の興味を個から集団に広げ、クラスのまとまりを作ろうとする意識がうかがえた。一方、b担任は、「子どもの興味」や「子どもの生活」に関連する絵本を学年前期に多く選書しており、幼稚園生活と絵本を繋げながら幼児の安定を図ろうとする意図がうかがえた。

以上のような結果から、入園年齢のクラスにおいて、担任の保育者が比較的自由に選書を行う場面での絵本の読み聞かせには、担任と幼児との信頼関係の構築や、幼稚園生活の安定、絵本への興味向上を図りクラスの友達と読み合う楽しさの積み重ねという意図が反映され、保育に組み込まれていたと考えられる。

2. 担任の保育者の読み聞かせスタイルが幼児の反応に及ぼす影響

(1) a担任の読み聞かせスタイルと幼児の反応

表4の6/29『いいから いいから』の観察において、a担任は、「絵を指さす」、「登場人物の表情を真似る」などの直接幼児に働きかける読み聞かせスタイルを

とっていた。富田ら(1995)は、幼児が読み手の表情や声の調子や変化を「読み」の手掛かりとして絵本世界を楽しむことを示唆している。つまり、a担任の直接的な動作は、お話の起伏や登場人物の感情を代替するものであり、この直接的な動作によって絵本の臨場感を共有しようとする意図がうかがえた。また、読み聞かせにおける“ポインティング”には、聞き手の集中力が増す効果があり、落ち着きのない幼児に効果的な手法であることが示唆されている(山田ら、2011)。表4の前半場面に「よそ見」をする幼児が多くみられたため、a担任は「絵を指さす」動作や各場面で物語理解を促す発話をし、絵本への興味向上を図ったと考えられる。

対して、学年後半の12/7『ぶたのたね』では絵本の中心場面において、幼児の反応を予想して十分に「間を取る」ことで期待を高めていた(表1)。これにより、この場面に幼児の「感嘆」が多く表れ、「よそ見」の減少がみられた。また、6月に比べて担任の発話はほとんどなかった。これらは、集団で話を聞く態度が身についてきた学年後半の実態に合わせ、幼児が自らの感性で絵本を楽しむことを意図したためと考えられた。

a担任は学年前半のインタビューで、クラスの人数が多く、2~3人の幼児が常に集まらない状態や絵本の途中で他に気がそれてしまう態度が他児にも伝わりやすいことに指導の難しさがあるとしていた。そのため、絵本の楽しさを伝えるための読み方の工夫や幼児の集

表3：aクラスおよびbクラスにおける『おおきなかぶ』の場面ごとの担任の動作・発話と幼児の反応

		場面														見返し	裏表紙				
		表紙	見返し	場面1	場面2	場面3	場面4	場面5	場面6	場面7	場面8	場面9	場面10	場面11	場面12			場面13			
aクラス 11/4 (木) n=30	保育者の動作	絵を指さす	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0			
		登場人物の表情を真似る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		抑揚をつける	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0		
		身振りをつける	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0		
		間をとる	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
	幼児の動作	じっと見る	14	16	16	19	22	24	24	28	27	27	24	26	22	28	28	11	9		
		よそ見	11	8	7	6	9	6	7	7	3	6	4	6	6	8	2	11	9		
	保育者の発話(お話しと発話数)		質問1 注意1 合図1 応答1	0	注意1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	合図1	合図1		
	幼児の発話		同唱(うんとこしょ)	0	0	0	0	4	11	0	8	0	18	0	15	0	18	0	0	0	
	bクラス 11/29 (月) n=18	保育者の動作	絵を指さす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
登場人物の表情を真似る			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
抑揚をつける			0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0		
身振りをつける			0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0		
間をとる			0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0		
幼児の動作		じっと見る	18	13	17	18	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	16	16		
		よそ見	0	7	8	8	4	3	1	3	1	4	1	1	1	2	0	2	7		
保育者の発話(お話しと発話数)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	合図1	0	0	合図1	
幼児の発話		同唱(うんとこしょ)	0	0	0	0	0	4	0	7	0	9	0	11	0	11	0	0	0		
発話		同唱(抜けません)	0	0	0	0	0	2	0	4	0	3	0	3	0	3	0	0	0		

表4：aクラスにおける絵本場面ごとの担任の動作・発話と幼児の反応

		場面														見返し	裏表紙		
		表紙	見返し	内刷り	場面1	場面2	場面3	場面4	場面5	場面6	場面7	場面8	場面9	場面10	場面11			内刷り	
6月29日 『いいから いいから』 n=23	保育者の動作	絵を指さす	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
		登場人物の表情を真似る	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		抑揚をつける	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
		身振りをつける	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0
		間をとる	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	幼児の動作	じっと見る	19	19	17	20	18	19	20	22	22	20	22	22	22	22	22	13	8
		よそ見	4	4	3	9	5	3	2	3	2	2	4	5	1	2	1	4	—
	保育者の発話(お話しと発話数)		呼びかけ2	0	注意1	0	状況描写2 質問2	0	0	登場人物の考え1	0	呼びかけ1 質問4 確認1	状況描写1 質問1	呼びかけ1 状況描写1	呼びかけ1 状況描写1	0	状況描写3 質問3 登場人物の考え1	合図1	合図1
	幼児の発話(お話しと発話数)		復唱9	0	復唱7	不調1	返答1	同唱2 疑問1	同唱1	同唱1	同唱9 不調1 返答1	同唱4 返答1	同唱3 要望1	0	絵へのコメント1	同唱4 疑問1	復唱1 同唱1 返答2	0	0

中を高めるための発話が多くみられたと考えられる。

一方で、読みの過程で挿まれる質問や説明には、お話の流れをせきとめ、お話の流れを子どもの心に印象づけることができなくなるという側面もある(松岡、1987)。読み手の質問や説明を通して絵本に関心を高める場合と、絵本の流れを重視して子どもの心に印象づける場合とでは、読み聞かせスタイルは異なるのではないだろうか。それゆえ、a担任は、物語理解や集団での話を聞くことが難しい学年前半には直接的な読み聞かせスタイルを用い、育ちを重ね、絵本を楽しむにしようになった学年後半には、発話を控え、お話を楽しむスタイルに移行したのではないかと考えられた。

(2) b担任の読み聞かせスタイルと幼児の反応

表5の6/22『もりのおふろ』の観察におけるb担任の[読み方の工夫]として、ページをめくる前の[間をとる]動作が特徴的であった。そして、絵本のお話の盛り上がる場面での[抑揚]と静かに楽しむ[間を取る]ことでめりはりをつけ、絵本の臨場感を幼児に伝え、興味を向けていた。例えば、表5の場面5～8や場面10～12の盛り上がる場面での[抑揚]によって、絵本前半より[よそ見]が減少する場面も観察されている。一方、学年後半の1/13の文字数が多く起承転結構造を持った絵本『はじめてのおつかい』では、[抑揚]と[間をとる]に[登場人物の表情を真似る]という動作を加え、幼児が物語理解を深められるよう配慮していた。

このように、b担任は、場面ごとに[間を取る]などの間接的なスタイルを中心としながら、絵本の内容や幼児の育ちに合わせて直接的なスタイルを選択していた。b担任のインタビューでは、担任が把握しやすい人数であり、幼児が早くから集団行動に対して“みんなですることが楽しい”と意識できていたとあった。それゆえ、b担任は、幼児が絵本そのものを楽しむことを意識した読み聞かせスタイルをしたと考えられる。

まとめと今後の課題

本研究の結果から、担任の保育者が比較的自由に選書を行う場面での絵本の読み聞かせには、担任と幼児

との信頼関係の構築や、幼稚園生活の安定、絵本への興味の向上を図りクラスの友達と読み合う楽しさの体験を積み重ねるという意図で絵本が選書され、担任は自分のクラスの状況や育ちの変容に合わせて絵本の選書理由を変えていることがわかった。

一方、保育者の読み聞かせには、絵本への集中や興味を向上させることを目的に直接幼児に働きかける読み聞かせスタイルと、幼児が十分に絵を楽しみ、お話の展開への期待感やクラスの一体感を向上させることを目的にした間接的な読み聞かせスタイルがあり、クラスの状況や育ちに依りてそのスタイルを選択していることがわかった。「幼稚園教育要領解説」では、絵本の指導方法として「その幼児なりの楽しみ方を大切にすること」をあげている。読み手が絵本構造に合わせた間接的な読み聞かせスタイルをとることで、個々の幼児がその場面に思い思いの想像を働かせたり、その思いが次の場面への期待感につながり絵本への興味を高めたりすることが期待できるのではないだろうか。

今後の研究課題として、本研究は2クラスの行動観察であったため、一般化するにはさらなるデータが必要である。クラスの数や担任の経験年数の統制された事例の比較や分析を積み重ね、指導計画や幼児の実態に合わせた読み聞かせスタイルを検討していきたい。

〈引用・参考文献〉

- 松岡亨子 1987 えほんのせかい こどものせかい 日本エディタースクール出版部 18-22
- 長瀬莊一 幸本由紀子 富本佳郎 2003 幼稚園における絵本の語り読みの実態 神戸女子短期大学論叢 48, 123-137
- 幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響 保育学研究 50(2)
- 大橋伸次 中平浩介 松本学 2005 「絵本」の選び方について 国際学院埼玉短期大学研究紀要 26, 73-76
- 添田正彦 数中征代 2011 集団への絵本の読み聞かせに対する保育者の意義の認識 教材学研究 22, 41-49
- 富田喜代子 佐々木宏子 青悦美代 1995 絵本の読みかきせにおける読み方の研究(2): 子どもの読みとり反応を中心に 日本保育学会大会研究論文集 48, 376-377
- 横山真貴子 2006 文部科学省 2008 幼稚園教育要領解説 領域「言語」, 137-157
- 山田真幸 大澤一葉 橋本創一 2011 知的・発達障害児と健常幼児における絵本の読み聞かせに関する検討-読み手の働きかけの違いによる影響について- 東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要 7, 29-34

表5: bクラスにおける絵本場面ごとの担任の動作・発話と幼児の反応

		表紙	見返し	場面1	場面2	場面3	場面4	場面5	場面6	場面7	場面8	場面9	場面10	場面11	場面12	場面13	見返し	裏表紙	
6月22日 (火) 『もりの おふろ』 n=21	保育者の 動作	絵を指さす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		登場人物の表情を真似る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		抑揚をつける	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0
		身振りをつける	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		間をとる	0	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1
	幼児の 動作	じつと見る	16	21	21	21	21	21	18	21	21	21	21	21	21	19	17	16	
		よそ見	4	1	4	4	5	9	6	2	2	1	0	1	3	3	4	5	7
		保育者の発話 (おつかい-と発話数)	0	0	0	0	注意1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	合算1
		幼児の発話 (おつかい-と発話数)	0	0	0	疑問1	絵へのコ メント1 不満1	不満1 返答1	0	感嘆1 疑問1	感嘆1 疑問1	復唱18	不満1 先取り1	感嘆1	復唱1	復唱1 絵へのコ メント2	0	不満1	0